



立地協定書に署名、押印するテクノスの藤井範之代表取締役(写真:左から2人目)とコアテックの須増仁志代表取締役社長(写真:左から3人目)

東阿曾に2社進出

精密機械関連企業のコアテックとテクノス



市が仲介する形で、東阿曾のフォセコの工場跡地(仮称・東阿曾工業団地)に精密機械関連企業のコアテック株式会社(本社・赤浜)と有限会社テクノス(本社・奥坂)の2社が進出することが決まり、8月29日、市役所で立地協定書の調印式が行われました。

協定書には、コアテックの須増仁志代表取締役社長、テクノスの藤井範之代表取締役、竹内市長、服部市議会議長の4人が署名・押印し、市との立地協定が結ばれました。

この工場跡地は、平成17年10月のフォセコの子会社の倒産により遊休地となっていた約1万8500㎡。平成18年4月以降、フォセコへ廃工場の撤去依頼をはじめ、各種の手続きを進め、2社の立地が決まりました。

須増社長は「液晶部品の検査装置や半導体の生産に専念できる工場になる。また、精密機械部品の加工をされるテクノスさんと共同で事業を展開することができる有利さもある」と、進出の理由を話しました。

企業誘致

◆新規の雇用を生み、税収の増収に

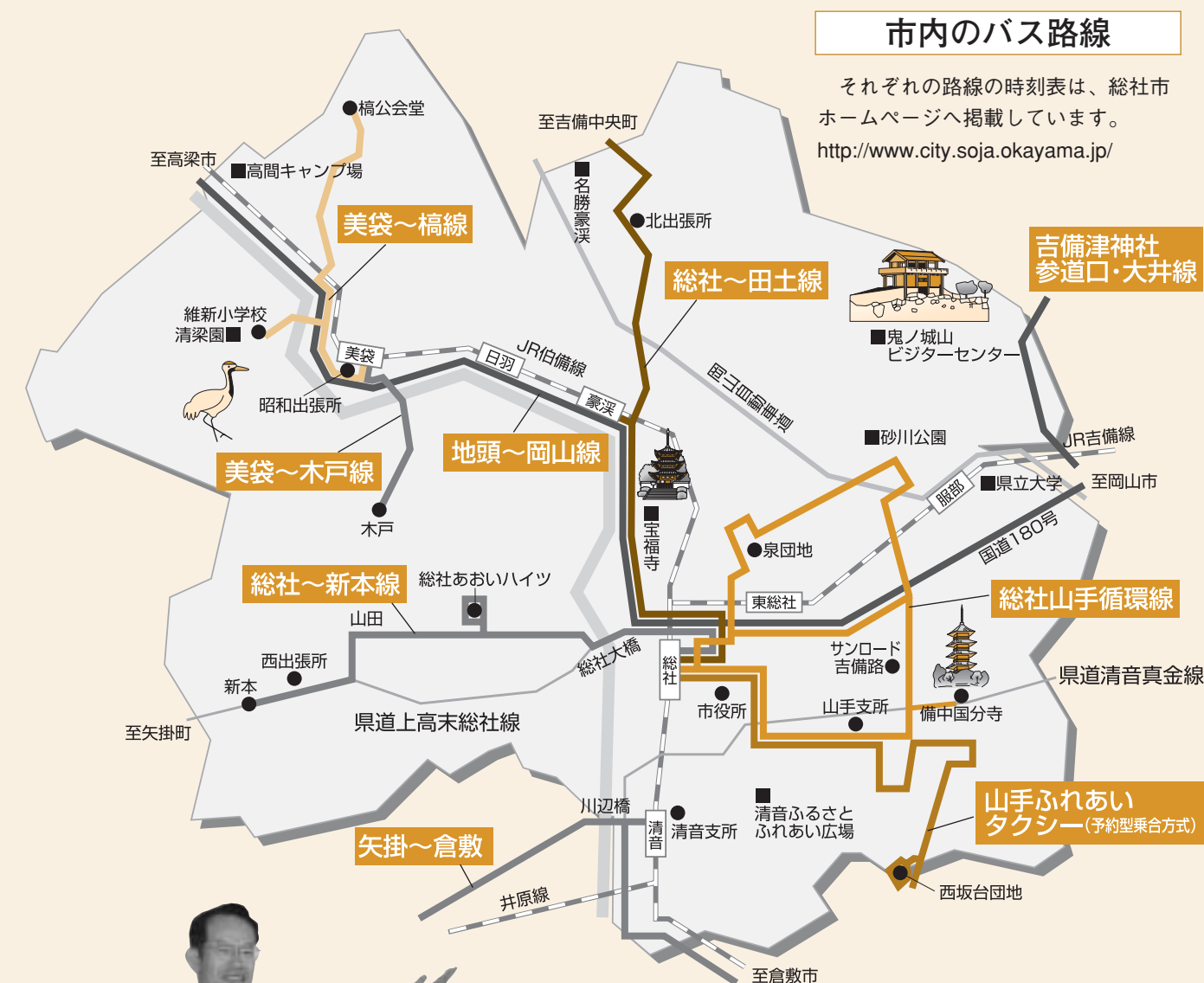
昨年は、株式会社紀文食品の岡山総社工場などの企業誘致が実を結び、新たな雇用を生みました。また、操業開始により市の税収にもつながります。市では、広域交通網の結節点にあたる総社市の地の利をアピールし、企業誘致活動に取り組んでいます。

今回の東阿曾への誘致は、場所が市街化調整区域であったことや、廃工場の撤去に伴う規制などクリアしないとならない課題が多くありましたが、進出する企業が技術先端型産業であることや、関係者や県の協力もあり実現することができました。2社とも県が推進する「ミクロものづくり企業」として今後も発展が期待されている企業です。



高谷企業誘致対策室長

バス路線の変更



市内のバス路線

それぞれの路線の時刻表は、総社市ホームページに掲載しています。
<http://www.city.soja.okayama.jp/>



安延人権・まちづくり推進課長

なくては困る だから、利用し、守り、育てる

市内のバス路線に対して市は、年間2000万円を超える補助金を支出しています。しかし、バス会社はそれでも赤字に苦しんでいるのが現状です。

近年、社会情勢の変化やマイカーの普及により、バス利用者は激減し、全ての路線が赤字路線です。現在の路線を維持するためにも、地域の皆さんが自分たちのバスであると位置付け、「なくては困る。だから、利用し、守り、育てる」といった認識をもっていただきたいと思えます。

※市内のバスについてのお尋ねは、人権・まちづくり推進課まちづくり支援係 ☎8242 まで